



普天間に行政集約 自然エネ拠点案も

米軍再編計画で返還が合意された嘉手納基地より南の6基地の跡地利用計画提案コンペが2日、宜野湾市の沖縄コンベンションセンターであり、最終審査に残った5者の中から、トラム&グリーン・リンケージ沖縄21(藤原敏雄代表)が賞金100万円の最優秀賞に選ばれた。

最優秀にトラム「水と緑」整備

藤原代表は(神奈川県の)相模原や座間、横浜などにも基地が街の発展を阻害しているケースがあり、跡地の再編整備を考える手掛かりになったと話した。

沖縄タイムス

大成建設や交通コンサルタンのライトレール、都市計画コンサルのニライ・カナイ研究所の有志で構成。「万国津梁の島、新しい沖縄の実現」と題して発表した。

【優秀賞】「麗しの海の邦」と「まちづくりマネジメント」(日本設計十泉設計)▽アジアの成長を呼び込み、域内産業を形成する沖縄新社会資本戦略的整備(琉球大学都市計画研究室有志)【佳作】沖縄が目指すべき「アジアにひらかれた成熟地域社会」を実現する10の提案(鎌田誠史十山岸豊)▽記憶が残る街・住み続けられる街・寄り道したくなる街(金城正紀)

最終審査ではこのほか、緑創出のため県民が1人1本のオーナーとなる「フクギ銀行」や、那覇港湾と牧港に都市型リゾートや先端医療拠点を、普天間以北に農業や自然エネルギー生産拠点を置く案など多彩なアイデアが出された。

「多極連携都市」に最優秀

跡地利用 波及効果を評価

【宜野湾】日米両政府が返還合意している嘉手納より南の6基地の土地利用計画策定に生かそうと、県が募集した「沖縄の新たな発展につなげる大規模基地返還跡地利用計画提案コンペ」の作品発表会と展示会が2日、宜野湾市の沖縄コンベンションセンターであり、最終審査に「万国津

梁の島、新しい沖縄の実現」をテーマにしたトラム&グリーン・リンケージ沖縄21の企画案が選ばれた。応募79件の中から2次選考に残った5件が発表された。返還地に近い6中学の生徒も「中学生サミット」として企画案を発表した。トラムは大成建設(東京)ら3社の有志16人でつくるチーム。企画案は普天間基地に県庁機能を移転するなど6基地を4テーマに分けて開発し、那覇空港から次世代型路面電車(LRT)やモノレールでそれぞれの拠点を結び「多極連携都市」をつくる構想。審査委員長の岸井隆幸日大教授は「バランスが良く、既存の市街地への波及効果を強く意識している点」が印象的だったと講評した。トラムは藤原敏雄大成建設営業総本部ディレクター

琉球新報

「優秀」日本設計十泉設計 琉球大都市計画研究室 有志【佳作】鎌田誠史十山岸豊・金城正紀

トラム&グリーンが最優秀

基地跡地利用提案コンペ

返還が予定されている嘉手納飛行場から南の6基地(キャンプ桑江南側地区、陸軍貯油施設第一桑江タンクファーム、キャンプ瑞慶覧、普天間飛行場、牧港補給地区、那覇港湾施設)の跡地利用計画提案コンペの作品発表会と最終審査が2日、宜野湾市の沖繩コンベンションセンターで開催され、最終審査に残った5者の中からトラム&グリーン・リンケージ沖繩21(藤原敏雄代表)が最優秀賞に輝いた。

トラム&グリーン・リンケージ沖繩21は、いずれも東京都に本社がある大成建設(株)、交通コンサルタン

の(株)ライトレル、都市計画コンサルタンの(株)ニライ・カナイ研究所の有志の集まりで、「万国津梁の島(くに)―新しい沖繩の実現」というタイトルで発表。提案内容は6基地を4つの都市エリアに再編し、「都市」、「交通」、「環境」の3つのネットワークを構築して、中南部都市圏の活力と魅力を高め、アジアをリードする沖繩の実現を目指すというもの。那覇港湾施設は「ゲートシティ」として、貴重な都心部の水辺空間を活かした観光交流拠点と、奥武山公園とを連携したアジアのスポーツ交流拠点とした。浦添市の牧港補給地区は同市にある

国立劇場おきなわなど既存の文化施設と連携した統合型エンターテインメントゾーと、MIC E・国際物流拠点とする。普天間は県庁など広域行政の中枢機能を移転・集約して、那覇市への一極集中を改善すると

もに、大規模森林公園や最先端の研究開発拠点を整備して沖繩の先導拠点と位置付けた。キャンプ瑞慶覧、桑江南側、桑江タンクファームは、高台立地と気候風土を活かし、国際色豊かで教育・医療の充実した暮らし創造拠点として整備する。交通の軸は環境に優しいLRTとして各都市拠点を結び、また環境面では、水と緑に満ちたセントラルパークを那覇市の中心部に整備して同市街地を再編するなど自然の生命力や循環のしくみを積極的に取り入れ、亜熱帯庭園都市の創出を目指す。

藤原代表は「沖繩以外にも基地により街の発展が阻害されているケースがあり、基地跡地利用は日本全体の問題だと思っている。今回のコンペは基地跡地整備を考える一つの手掛かりとなった」と述べた。

最終審査では、そのほか那覇港湾と牧港補給地区に都市型リゾートや先端医療産業拠点、物流・文化・スポーツ産業拠点を置いて「ブルーゲートシティ」、普天間飛行場以北に先端農業や健康産業拠点、商業観光拠点、自然エネルギー生産拠点を盛り込んで「グリーンファームシティ」とする提案など多彩なアイデアが披露された。

コンペは県の本土復帰40周年記念事業の一環で、県内外から79作品の応募があり、第1次審査で20作品に絞られ、20作品の中から、さらに絞られた5作品が最終審査の対象となった。

当日は最終審査のほか、鏡原中学校、普天間中学校、山内中学校、仲西中学校、北谷中学校、北中城中学校の生徒が学校の近くにある基地の跡地利用計画を発表した。

そのほかの受賞者は次の通り(敬称略、カッコ内は提案者)。

【優秀賞】
▼「麗しの海の邦」と「まちづくりマネジメント」(日本設計+泉設計)、アジアの成長を呼び込み、域内産業を形成する沖繩新社会資本戦略的整備(琉球大学都市計画研究室有志)

【佳作】
▼沖繩が目指すべき「アジアにひらかれた成熟地域社会」を実現する10の提案!(鎌田誠史+山岸豊)、記憶が残る街・住み続けられる街・寄り道したくなる街(金城正紀)



提案内容の一部(トラム&グリーン・リンケージ沖繩21提供)



最優秀賞に輝いたトラム&グリーン・リンケージ沖繩21のメンバー